

第四章 占有

第一節 占有ノ種類及占有スルコト

第百七十九條及ヒ第百八十條

最モ普通ニシテ且最モ簡單ナル意義ニ從テ之

ヲ解スルハ占有トハ一箇ノ物ヲ所持シ自由完

全ナル處分ヲ爲シ得ルノ事實ヲ謂フモノナリ

然レトモ占有ハ單ニ有体物ニ付テハミ爲スコ

トヲ得ハキ然レミナラス尚ホ無体物タル權利ニ

モ適用セラレ可キモノナルカ故ニ右ニ述フル

如ク解スルヨリハ寧口吾人カ現ニ有シ若クハ  
有セリト主張スル人權又ハ物權ノ行使ナリト  
定義ヲ下スヲ以テ其當ヲ得タルモノト爲ス  
占有ハ多少引續キタル所爲ニ因テ成立スルモ  
ハニシテ具引續ク所爲トハ眞ニ占有ノ目的ヲ  
ル權利ヲ有スル者ノ普通ニ爲ス如ク引續キテ  
權利行使ノ所爲ヲ爲スヲ云フ  
普通ノ場合ニ於テハ此事實ハ權利ト共ニ一人  
ノ手ニ存ス可ク是事實<sub>ニ除</sub>於テ最モ屢々見ル所  
ナリ此場合ニ於テハ特ニ法律ヲ以テ之カ規定

ナリ此場合ニ於テハ特ニ法律ヲ以テ之カ規定

ヲ爲スス必要甚ク大ナラザルモノアリ既ニ權  
利ヲ有スルトキハ其權利ニ對シ法律ノ擔保ア  
ルカ故ニ此擔保ハ占有ノ事實ニモ同シク使用  
セラレ可ケレハナリ  
然レトモ若シ占有者ニシテ自カラ有セリト主  
張スル權利ヲ真正ニ有セサルトキ又ハ真正ニ  
此權利ヲ有スルモ其證據ヲ提出スル能ハサル  
トキハ法律ハ特ニ占有者ニ與テ法律上ハ  
利益ヲ以テセ刻即チ權利ノ有無ヲ問ハスシテ  
先ツ其占有ヲ保護シ之ニ擔保ヲ與フルコト是

ナリ故ニ他人若シ其占有ヲ妨害シ又ハ之ヲ侵  
奪シタルトキハ占有者ハ占有訴權ト名クル一  
種ノ訴權ニ依リテ自己ノ占有ヲ維持シ又ハ之  
ヲ回復スルヲ得ベシ  
右ニ述フル如ク特ニ法律ヲ以テ之ヲ確認シ而  
シテ特別ナル訴權ヲ以テ擔保シタル占有ナル  
モノハ單ニ一箇ノ事實<sup>ニ過キス</sup>ト云フコトヲ得ス  
實ニ權利ト稱スルニ足ル一切ノ性質ヲ備フル  
モノナリ故ニ之ヲ占有權ト稱スルコトヲ得ベ  
シ是ヲ以テ本法第四章ハ占有ヲ物權ノ中ニ掲

シ是ヲ以テ本法第四章ハ占有ヲ物權ノ中ニ掲

ケタリ

前段ニ掲ケタル占有ノ定義ハ唯法定ノ占有ニ

ハ適用スルモノナリ然ルニ第百七十九條ニ

依リハ占有ハ法定占有ノ外尚ホ二種類アリ自

然ノ占有及ヒ容假ノ占有是ナリ此二種ノ占有

ハ共ニ一箇ノ性質ヲ缺クモノニシテ即チ自然

ノ占有及ヒ容假ノ占有ニ於テ占有者ハ

具ク占有スル物又ハ權利ヲ自己ノモノトスルノ

意思アラサルナリ此故ニ容假ノ占有ト自然ノ

占有トハ法定ノ占有ト同一ノ利益ヲ得セシム

ルモノニ在ラス又之ト同一ノ制限ニ依テ擔保  
セラルモノニ在ラス是等ノ點ハ後ニ規定ス  
ル所ニ依テ之ヲ知ル可シ  
法律上法定ノ占有ニ附着セシメタル利益ハ如  
何ナルモノナリヤハ第三節ニ至リテ始メテ之  
ヲ知ル可シ今ハ唯法律上占有ノ三箇ノ種類ヲ  
設ケタル利益ヲ知ラシムル為メ左ノ一事ヲ述  
ブルヲ以テ是レリト為ス即チ法定ノ占有ハ占  
有者ヲシテ次ニ掲クル三箇ノ利益ヲ得セシ  
ムルモノナリ

第一法定ノ占有者ハ反對ノ證據アラサル限ハ

第一法定ノ占有者ハ反對ノ證據アリサル限ハ

自己ノ物トシテ占有スル權利ヲ真正ニ有スル

モノナリトノ法律上ノ推定ヲ受クルモノナリ

第二法定ノ占有ハ占有者ヲシテ占有スル物ハ

果實及ヒ產出物ヲ取得セシムルモノトス

第三法定ノ占有ハ占有者ヲシテ取得時効ト名

クル法律上ノ推定ノ利益ヲ得セシムルコトヲ

得ルモノナリ

然レトモ是等ノ利益ハ或ル區別ニ從テ多少ノ

程度ヲ異ニスルモノニシテ占有ガ正權原ヲ有

スルト否ト又善意ナルト惡意ナルト差クハ瑕  
疵アルト然ラサルトニ從テ其效力同一ナラサ  
ルモノナリ是等ノ區別ハ以下數條ニ於テ詳細  
ノ規定ヲ爲セリ  
第百八十一條

本條ノ法文ハ正權原ノ定義ヲ下セリ而シテ本  
條ノ明文ニ從ヒ正權原タル性質ヲ有スル權利  
行爲ハ或ハ賣買交換等ノ有償ノモノナルコト  
アル可シ或ハ贈與遺贈等ノ如キ無償ノモノト  
ルコトアル可シ

賣買等使用賣買等ノ場合ニ於テハ正權原ノ



ルニトアル可シ

貸貸借使用貸借代理ノ場合ニ於テハ正權原

場合ト有テ金外相反スルニ即テ無權原ナリト云フ可シ

蓋シ斯ノ如キ場合ニ於テ占有者ト未タ自己

ノ爲ニ之ヲ有スル人意思アラサルナリ然ルニ

自己ノ爲ニ有スル意思ハ法定占有ノ緊要ノ性

質ニシテ疑ナキトキハ未タ法定占有ト稱スル

ニトテ得ス故ニ是等ノ場合ニ於テハ占有ハ唯

容假ノ占有タルニ止マリ第百八十九條ニ規定

ル所トス

要スルニ正權原ノ反對ハ權原アラサル場合ニ

即チ侵奪ニ基キ占有ヲ爲シタル場合ナリ

之ヲ名ケテ無權原ノ占有ト云フ

第百八十二條

法定ノ占有ハ自己爲ニ有スル意思ヲ必要ト

爲スコト既ニ述ヘタル所ナリ然レモ此意思

アルモ未ダ必スシモ善意ナリト云フヲ得ス即

チ占有者カ其占有スル權利ノ自己ニ属スルコ

トチ確信スルモノト言フ可カラヌ又悪意ナル

占有アルハ而シテ具善意ト悪意トニ從テ占

有ノ効力モ亦同一ナラサルモノトス

善意ノ占有ハ前條ニ於テ定義ヲ

有ハ効カモ亦同一ナラサルモノトス

善意ノ占有ノ場合ニ於テハ前條ニ於テ定義ヲ

下シタル如ク正權原ヲ必要ト為ス即チ外見上

正當ナルモ眞正ハ一條件ヲ缺クタル權原存在

シテ後初メテ善意ナルモノアルヲ得ハ實質

ノ一條件トハ占有ノ目的タル者ノ讓渡人ニ於

テ其物ヲ占有者ニ讓渡スユトヲ得ルニ必要ナ

ル分限ヲ指スモノナリ讓渡人カ其分限ナクシ

テ讓渡ヲ為シタルトキ占有者カ其分限ノ不備

即チ其占有ノ基礎タル權原ノ瑕疵ヲ知ラサル

トキハ占有者ハ善意ナリ然ルニ之ニ反シテ此

分限ノ不備即チ權原ノ瑕疵ヲ知リタル場合ニ  
於テハ讓受人ハ善意ノ占有者タルヲ免カレサ  
ルモノトス  
然レトモ占有者カ右ノ瑕疵ヲ知ラズシテ善意  
タルニハ具瑕疵ノ不知カ事實上ノ錯誤ニ基ク  
コトヲ要ス故ニ法律上ノ錯誤ニ基クモ之ヲ以  
テ善意ナリト云フ可カラス例ハ占有者カ眞  
正ナル所有者ト契約ヲ爲シタルト信シ而シテ  
其人ニ付テ錯誤ナリタル場合又ハ所有者ハ正  
當ナル代理人ト契約ヲ爲セリト信シタルニ具

當ナル代理人ト契約ヲ爲セリト信シタルニ具

前ニ於テ代理ハ既ニ取消サレタル場合ノ如キ

ハ占有者ハ法律ノ所謂善意ノ占有者ナリトス

然レトモ若シ未成年者ト契約ヲ爲シ而シテ有

效ナリト信シタル如キ又ハ自己ノ權利ノ基

礎タル所爲ニ有效條件トシテ或ル方式ヲ履行

スルコト必要ナルニ知ラスシテ契約ヲ

爲シタル如キ總テ占有者ハ不正ナリト云フ可

カラス然リト雖モ法律ノ所謂善意ノ占有者ト

ルコトヲ得サルナリト云フ可キト云フ可キト

右ニ述ブル如ク善意ト正直トハ同一ナルコト

雖モ縱ニ善意ナラサル場合ニ於テモ占有者ノ  
正直ハ尚ホ法律上何等ノ利益ヲモ喫ヘサルモ  
ハニ在ラス此點ニ關シテハ本條ノ指示スル如  
ク第百九十四條ノ規定ニ付テ利益ヲ見ル可シ  
占有カ善意ナルニハ其善意カ占有ノ基礎タリ  
權原タル所爲ノ成立スル當時ニ存在スルニト  
テ必要ト爲ス此當時ニ於テ善意既ニ存スルト  
キハ占有ハ一切ノ利益ヲ受クルモノナリ故ニ  
其後ニ至リ占有者カ權原ノ瑕疵ヲ發見スルコ  
トアルモ之カ爲ニ既往ニ溯ホリテ善意ノ利益

トアルモ之カ為ニ既往ニ溯ホリテ善意ノ利益

ヲ失フモ之ニ在ラス是ヲ以テ善意ノ占有ヲ初

メタルモハハ縦令後日ニ至リテ善意トナルモ

當初ヨリ悪意アリシ者ニ比スレハ是ハ短キ時

効ノ利益ヲ受ケルコトヲ得ルニ然レドモ悪意

トナリタル時ヨリ占有スル物ヨリ生スル果實

ヲ失フ可シ即チ善意ナル間ハ果實ヲ取得スル

コトヲ得ルモ悪意トナリシ時ヨリ後ニ採取セ

タル果實ハ自ラ之ヲ取得スルコトヲ得ス

第百八十三條

本條ニ掲ゲタル占有ノ二箇ノ瑕疵存在スルモ

之カ爲メ必スシモ正權原及ヒ善意ナシト云フ

コトヲ得ス

**強暴**ニ依テ得タル占有ノ如キハ實際正

權原ニ基クコト甚タ稀ナル可シ然レトモ若シ

一人アリ他人ヲシテ具占有スル賊産ヲ賣渡抄

シテ此契約ヲ爲スニ付テ強暴ヲ施シタル場合

ニ於テハ新占有者ハ賣買ニ依リ一ノ正權原ヲ

有ス可ク且若シ讓渡人ヲ以テ真正ノ權利者ヲ

リト信シタル場合ニ於テ全ク善意ノ占有者ヲ

ル可シ然レトモ賣買ヲ爲スニ當リ強暴ヲ施シ



ル可シ然レトモ賣買ヲ爲スニ當リ強暴ヲ施シ

タルカ故ニ具占有ハ瑕疵アル占有ナルコトヲ

免カレサルナリ又占有者カ占有ヲ得タル當初

ニ於テ強暴ヲ施スニトナキモ讓渡人ハ真正ノ

所者ナラザリシカ爲ニ他日ニ至リ真正ノ所有

者發見シタルトキ之ニ對シ占有ヲ維持スル爲

メ暴行脅迫ヲ施シタル場合ニ於テハ當ホ強暴

ヲ占有者タルヲ免セザルナリ而シテ此場合

ニ於テモ尚ホ占有者ハ善意ナルコトヲ得ハ

何トナレハ自己ノ權利ヲ以テ正當ナリト信ス

ルニ從ヒ之ニ基キ占有ノ暴行ヲ爲スニ愈ハ暴行

防擲

ヲ以テスルモトアリ得ヘケレハナリ愈ハ暴

穩密ノ瑕疵ハ強暴ノ瑕疵ニ比スレハ最モ正權

原及ヒ善意ト充立スルモトヲ得ヘシ例ハ讓

渡人ニ屬スル財産ナリト信シテ一箇ノ物ヲ買

受ケタル後ニ至リ自己ノ錯誤ヲ察見シタル場

合ニ於テハ真正ノ所有者ヨリ回復ノ請求ヲ受

ケシモトヲ恐レ具注意ヲ惹起スコト無カラシ

ムル爲ニ自己ノ占有ヲ隱匿スルカ如キハ實ニ

當初ニ於テ善意ノ占有ナリト雖モ全ク瑕疵ア

ル占有トナリシモノナリ

多クハ易合ニ於テ強暴又ハ隱密ノ瑕疵ハ無權

ル占有トナリモナリ

多クノ場合ニ於テ強暴又ハ隱密ノ瑕疵ハ無權

原又ハ惡意ト共ニ存スルコトアル可シ斯ノ如

キ場合存於テモ尚ホ占有ノ所為ニ不利益ナル

性質ヲ區分スルコト甚タ緊要ナリトス蓋シ無

權原及ヒ惡意ハ自己ニ利益ヲ受クルノ期ヲ遲

延スルモノナリト雖モ未タ全ク之ヲ失ハシム

ルモノニ在ラス而シテ強暴及ヒ隱密ノ瑕疵ハ

全ク之ニ異ナレハナリ

果實取得ノ點ニ關シ占有ノ隱密及ヒ強暴ハ瑕

疵ノ効力ニ關シテハ後ニ至テ之ヲ知ル可シ

△占有者ノ  
對シテハ  
有物ノ果實  
ヲ取得スル  
ヲ得ルコト  
ヲ要スルコト  
ヲ要スル  
コトナリ  
隱密ノ瑕疵  
ノ點ニ關シテ  
後ニ至テ之  
ヲ知ル可シ  
トナリ

本條ハ明ニ占有ノ瑕疵カ如何ナル方法ニ依

テ消滅スルモノナリ又ハ示セリ占有ノ性質

ハ變更ハ唯將來ニ向テ効力ヲ有スルモノニシ

テ既往ニ溯ルモノニ非ズ此コト固ヨリ辯テ

埃タス此點ニ於テ前條ニ從テ善意又ハ惡意

ノ効力ニ關スル所ト其理ヲ同シウス

更ニ注意スルキモノハ此點有ルニ箇ノ瑕疵

關係ノモノニ對テ絕對ノモノニ非ズ

是ナリ要意ニ對テハ

故ニ或ハ一人ニ對テ暴行脅迫ヲ以テ取得ス

佳詩ニタル者有ル也人ニ對シテ

故ニ或ハ一人ニ對シ暴行脅迫ヲ以テ取得シ又

ハ維持シタル占有ハ他人ニ對シテ必スシテ

此瑕疵ヲ有スル者ノニ在ラス故ニ真正ノ所有

者他ニ存シ而モテ之ニ對シ未タ何等ノ暴行脅

迫ヲ施サハル場合ニ於テハ之ニ對シ占有セ

ル果實ヲ取得シ得ルニ付

モ亦他ノ人ニ對シテ隱密ノ占有ヲ知ラ

ト云フニ對シテ得ズ此故ニ真正ノ所有者ニ對シ

テ果實ヲ取得シ及ヒ自己ノ利益ノ受クルコトヲ得

ベシ

實ヲ取得シ及ヒ自己ノ利益ノ受クルコトヲ得

ベシ

△占有者ニ之

對シテ白

有物ノ果實

ヲ取得シ又ハ

取得時効ハ

利益ヲ

受ルルニ

付ル可シ

隱密ノ瑕疵

ニ付ルモ亦然リ

占有者カ有ルニ

亦右ノ如ク

ト誤信シ他人

對シテ

以上述フル所ト異ナリテ若シ無權原又ハ惡意

ナリニ場合ニ於テハ此條件ノ不備ハ所有者ノ為メ

最モ不利益ナルモノニシテ單ニ定リタル人ヨ

リ之ヲ以テ對抗シ得ヘキノミナラス何人ト雖

モ之ヲ主張シテ對抗スルコトヲ得ヘシ即チ無

權原及ヒ惡意ノ效力ハ絶對ニシテ關係ノモノ

ニ非サルナリ

第百八十四條

自然ノ占有ハ單純ナル事實ニ過キズ即チ有形

ノ所爲アリト雖モ未タ法律上何等ノ關係ヲモ

生セザル所ハモノナリ法律上之ヲ認ムルコト

所為アリト雖モ未タ法律上何等ノ關係ヲモ

生セサル所ノモナリ法律ハ之ヲ認ムルコト

得ル久又之ヲ觀過スルコトヲ得ルコト雖モ

未タ之ニ對シテ何等ノ保護ヲ與フルモノニ在

ラス即今自然人占有ハ法律上何等ノ擔保ヲ有

スルモノニ在ラス又法定ノ占有ヲ以テ一箇ノ

權利ヲ為スル自~~然~~種々ノ利益ヲ得ルコトニ付テ

具ク分テモ有スルコト能ハサルナリ然レ

自然ノ占有ハ場合ハ實際ニ於テ決シテ少ク加

ラサレ可シ或ハ隣人ノ間ニ於テ或ハ親戚朋友

ノ間ニ於テ真正ナル所有者ノ許可ヲ受クルコ

自然占有ハ

利益ヲ得ルコトニ付テ

然レ

トナク或ハ其知ラサル物ニ於テ動産又不動  
 産ヲ他人カ使用スルコト屢見是有ル可也然レ  
 トモ斯ノ如キ場合ニ於テ使用者ハ其隣人親戚  
 又ハ朋友ニ屬スル賤産ヲ自己ノ有ト爲スノ意  
 思アリテ之ヲ使用スルニ在ラス又何等ノ權利  
 ヲモ其物件ニ付テ主張スルノ意思アラザルナ  
 リ此場合ニ於テハ其占有ハ全ク自然ニ占有  
 リトスルニ依リテ其占有ハ其占有ニ在  
 若シ真正ナル所有者ノ許可ヲ得テ其所有物ノ  
 使用ヲ爲スル如キハ使用貸借ノ場合ニ於テ見

所ノ事實ニシテ又所有者ノ許可ヲ得テ之ヲ



使用ヲ爲ス力如キハ使用貸借ノ場合ニ於テ見

ル所ノ事實ニシテ又所有者ノ許可ヲ得テ之ヲ

所持スルハ寄托ノ場合ニ於テ之ヲ見ル可シ

ト使用者又ハ受寄者カ他人ノ財産ヲ占有スル

ハ~~業~~然ノ占有タル可シ然レトモ此場合ニ

於テハ~~業~~然ニ掲クル如ク特ニ容假ノ占有トス

本條ニ於テ公有ニ屬スルモノハ各人ハ占有

目的トナルコトヲ得ルモ其占有ハ遂ニ自然

占有ニ過キサルコト明カニモテ以テ第二十六

條ニ掲ケタル原則ヲ全カラシメ即チ同條

ノ原則ニ依レハ公有ニ屬スルモノハ各人ニ屬

スルコトヲ得ヘカラス又各人ノ為ニ何等ノ權  
利ノ目的トナルコトヲ得サルモノナリ是ヲ以  
テ各人カ公有ニ屬スル物ノ一分ヲ所持シ而シ  
テ其所有者ナリト主張スル者凡ルモ其占有者  
ノ地位ハ未タ斯ノ如ク主張ヲ爲サル時ニ比  
シテ何等ノ利益ヲモ受クルコト能ハサルナリ  
各人ハ公有ニ屬スル物ノ自然ノ占有ニ非サル  
他人ノ占有ヲ爲スコトヲ得スト雖モ此理論ニ基  
キ公ノ法人ト雖モ尚ホ自然ノ占有ニ非サレハ  
得スト断定ス可カラズ故ニ國ハ各人ニ屬スル

得スト断定不可カラス故ニ國ハ各人ニ屬スル

賤産ヲ公有ニ屬スル賤産ノ部分トシテ法定ノ  
占有ヲ爲スストヲ得ヘシ何トナレハ各人ニ屬  
スル賤産ハ其性質上用方ヲ変更シ得ヘカラサ  
ルモ人ニ非サレハナリ各人ハ私有ニ屬スル賤  
産ハ法律上何等ノ特別ナル方式ヲ要スルコト  
ナクモニテ唯實際國用ニ供セラレタル以上ハ全  
ク公有ニ屬スル賤産中ニ移轉スヘク之ニ及ニ  
テ公有ニ屬スル賤産ハ一旦私有賤産中ニ編入  
サレタル以上ニ非サレハ各人ノ賤産トナルコ  
トヲ得サルモノナリ

公有ニ屬スルニ物ニ關シテ占有ノ禁止ヲ爲シ

タル本條ノ規定ハ此禁止ヲ以テ第二十六條ニ

依リ融通ス可カラサル一切ノ物ニ適用ス

ルモノトモトモ注意ス可キニ此禁止

第百八十五條ニ關シテ注意ス可キニ此禁止

容假ノ占有ハ自然ノ占有ノ一種ト看做サ

ルハコトヲ得ヘシ何トモレハ容假ノ占有ノ場

合ニ於テ占有者ハ其所持又ハ其行使スル權利

ヲ自己ノ爲ニ有セリト主張スルモノニ在ラズ

且此占有者ハ或ハ代理人契約ニ依リ或ハ事務

管理ニ依リ或ハ事務ニ關シテ注意ヲ施

且此占有者ハ或ハ代理ノ契約ニ依リ或ハ事務

管理ニ依リ又ハ寄托使用貸借若クハ注意ヲ施

シテ其物ヲ保存シ且後ニ至テ契約對手人ニ之

ヲ返還ス是亦義務ヲ生ゼシムル他ノ契約ニ依

テ所有者ノ爲ニ其物ヲ所持シ又ハ權利ヲ行使

スルモノナリハナリ

他ノ一方ヨリ觀察スルニ容假ノ占有者カ他人

ノ爲ニ占有ヲ爲ス場合ニ於テハ其他人ハ容假

ノ占有者ノ爲セル占有ニ依テ自ラ法定ノ占有

ヲ爲スモノナリ唯斯ノ如キ場合ニハ自ラ占有

ノ目的タル物又ハ權利ヲ自己ノ物トスルノ意

思アルコトヲ要スルニ止マリ此條件備ハリタ  
ル以上ハ占有ノ三個ノ利益ト占有ニ附属スル  
訴權ト有スル者ハ右二人中容假ノ占有者ニ  
非<sup>ル</sup>トスシテ法定ハ占有者ナリハ其外人ハ容假  
若シ動産質不動産質用益權地役賃借等ノ名義ヲ  
以テ他人ニ屬スル物件ノ占有ヲ爲ス者ハ總テ  
之ヲ容假ノ占有者ト看做スコトヲ要ス  
然レトモ是等ノ人々ハ斯ノ如ク一方ニ放テ他  
人ノ爲ニ權利ヲ行使シ容假ノ占有者ト同時ニ  
一方ニ於テハ自己ノ名義ヲ以テ自己ノ爲ニ行

一方に於てハ自己ノ名義ヲ以テ自己ノ爲ニ行

使シ敢テ他人ノ利益爲ニ他人ノ名義ヲ以テ

行使セサル一個ノ物ヲ有スルモノナリ此故

實是等ノ人ヲ指シテ容假ノ占有者ナリト稱ス

與ニ唯其占有スル目的物ノ所有權ノ點ニ於テ

之ヲ謂フモノナリ蓋シ斯ノ如キ占有者ハ原實

ノ物ヲ所持シ而シテ所有者タルノ所爲ヲ濫用

スルコトヲ得ヘシト雖モ斯ノ如キ所爲ハ未タ

此占有者オシテ所有權ノ取得時効ヲ得セシメ

得ヘキモノニ非ス唯其權原ニ基ツキ是等ノ

占有者ナシテ取得セシメタル權利ニ關シテハ

占有者ナシテ取得セシメタル權利ニ關シテハ

容假ノ占有ニ非スシテ全ク自己ノ爲ニ其

占有ヲ爲スモノナリ且單ニ占有ヲ爲スル者ナ

ラス屢々真正ニ其占有スル權利ヲ有スル者ナ

ル可シ何トナレハ此場合ニ於テハ此占有者ハ

其權利ヲ讓渡スル限ナキ者ト契約ニ依リテ推

測ス可キ特別ノ理由アリサレハナリ

其理右ニ述フル如クナルヲ以テ用益權ヲ有ス

其他所有權ノ限分人權タル物ニ關シテ容假

ノ占有者アル場合ヲ知テシテ欲セハ占有者カ

他人ノ爲ニ他人ノ名義ヲ以テ用益權其他ノ支



他人ノ爲ニ他人ノ名義ヲ以テ用益權其他ノ支

分權ヲ行使スル場合ヲ想像スルコトヲ要ス例

ハ後見人、夫、管理人等ノ如キ是ナリ

占有ノ容假ハ之ヲ以テ占有ノ一個ノ瑕疵ト稱

スルコトヲ得、外從テ強暴及ヒ隱密ト同地位

ニ置テ之ヲ得、然レトモ斯ク如ク容假ヲ

以テ強暴隱密ト推定スルコトハ一ニ占有ノ容

假ハ自<sup>時</sup>由<sup>効</sup>所<sup>爲</sup>ヲ妨<sup>ル</sup>此點ニ於テハ強暴及ヒ

隱密ニ比シテ具効力一層大ナルニ依ルモノナ

リ今時効ヲ妨ケルノ點ニ於テ占有ノ容假ハ其

強暴又ハ隱密ニ比シテ一層効力大ナリト云フ

所以人モノ他ナシ強暴ト隱密トハ全ク關係

ノ人モノ性質ハ概シテ絕對

ノモノナルヲ以テナリ

右ノ理由ニ基クトキハ容假モ亦一個人瑕疵ナ

リト稱スルコト未タ難カラスト雖モ其實容假

ハ之ヲ占有ハ瑕疵ト稱セサルヲ以テ可ナリト

又何トナレハ容假ハ未タ較有者ニ於テ瑕疵才

非又又稱隱密ト非ハハナリ

占有ノ容假ハ其強暴又ハ隱密ハ瑕疵ト異ナリ

テ全ク絕對ノ性質ニシテ關係ノ瑕疵ニ非サレ

長ク容假ノ占有者ハ單ニ其利益ノ爲メ且其

テ全ク絶對ノ性質ニシテ關係ノ瑕疵ニ非ズ

ニ依リ容假ノ占有者ハ單ニ其利益ノ為メ且其

名義ニ於テ占有スル人ニ對シテ人ニ自己ノ占

有ヲ主張ス能ハサル人ニ對シテ總テ何等ノ

人ニ對スルモ其占有ヲ以テ對抗スル能ハサル

ナリ與得齊ク容假ノ瑕疵同ク占有

原則上占有ノ瑕疵ハ占有ノ瑕疵同ク占有

ニ缺之セル性質ノ發生ニ依テ消滅スルモノナ

リ例ニ従来他人ノ為ニ占有スルモノ其性質カ具

意ヲ變更シ自己ノ為ニ占有スル始メタルトモ

其占有ハ其時限リテ容假ノ性質ヲ失フ

然レモ此原則ハ容假占有者カ或ル權原ニ  
 基キテ占有ヲ爲シ而シテ其權原ニ依リ(明カニ)其容假  
 ノ性質ヲ失生シタルコト寄托、使用貸借、貸貸借ノ  
 如キ場合ニ於テハ一ニ例外ヲ爲スモルニモテ  
 其適用是ヲ困難ナルニ至ル斯ノ如キ場合ニ於  
 テハ其占有ノ容假ヲ變ニ全ク法定ノ占有ヲラ  
 シムルハ單ニ占有者ニ一己ノ意思ハ依テ  
 爲スニテ得キニ非ラス斯ノ如クハ其占有  
 ノ基礎タル權原ハ全ク無効ニ歸スヘク而シテ  
 此權原タルヤ真正ナル權利者ト占有者ト相對

此權原タルヤ真正ナル權利者ト占有者ト相

リテ定メタル所ニシテ且真正ナル權利者ハ

此契約ニ因リ自ラ財産ヲ保存セシム欲シ占有

者ヲ信認スルモ殊ナク占有者一己ノ意思ヲ

以テ此信認ニ對スル如キ占有ノ変更ヲ為ス

トトテ得ヘケンヤ故ニ此場合ニ於テハ從來客

假ナル占有カ變ニテ法定ノ占有トシテ本條

ニ定メタルノ所為中殊ニ具一ナル必要

トナス

本條ハ明示セシム所為ハ多言ヲ費スルコト

ナクシテ容易ニ之ヲ解スルコトヲ得ル

第一卷 容假ノ占有者カ将来ニ於テ自己ノ爲  
メニ且自己ノ名義ヲ以テ占有スル權利ヲ行使  
セト欲スルトキハ占有者ハ法定ノ占有者即  
チ將來其人ノ爲ニ且其人ノ名義ニ於テ占有ヲ  
爲シタル人ニ對シ容假ノ占有者カ将来ニ於テ  
自ラ權利主ナリト信スルコトヲ告知スルヲ要  
ス其告知ハ若シ裁判上ニ請求ニ依テ爲サザレ  
バ場合ニ於テ之ヲ裁判上ノ告知ト稱シ而シテ  
裁判上ノ告知タラス唯裁判外ノ手續ニ關スル  
規定ニ從ヒ公理ニ依テ之ヲ爲シタルト

規定ニ從ヒ公理ニ依テ其薄之ヲ爲シタルト

キハ裁判外ノ告知タル可シ  
此告知ヲ爲スニ當テヤ占有者ハ必ス將來ニ旅  
テ自ラ權利主ナリト認メタル理由ヲ示ス可シ  
占有者若モ此理由ヲ示サズカ又ハ之ヲ示ス  
モ相手方ニ於テ此理由ヲ充分ナリト認メサル  
場合ニ於テハ相手方ヨリ之ニ對シ異議ヲ起シ  
遂ニ訴訟トナル可シ相手方ニ異議アルト否ヤ  
トニ拘ハラズ又其理由ノ如何ニ拘ハラズ少ク  
モ此異議アリタル時ヨリニ占有ハ客假ノ性  
質ヲ失フヘク最終ノ決定ニ至テ始メテ是非ヲ

判定スルコトヲ得ヘシ而シテ容假ノ性質ハ絶

對~~ニ~~人モナルト同シク容假ノ性質ノ消滅ス

ルモ亦特別ノ人ニ對シテ然ルニシテ~~非~~ス

總テノ人ニ對シテ全ク法定ノ旨有トナルモノ

ナリテ~~然~~レトモ右ニ揚ケタル告知力假~~ニ~~數人ノ利

然レトモ右ニ揚ケタル告知力假~~ニ~~數人ノ利

害關係人ニ爲サレトモ必要ナルニ當テ單ニ

具中一人ニ對シテ此告知ヲ爲シタル場合

ニ於テハ此告知ニ效力ニ因テ容假ノ性質消滅

スルニ~~唯~~此告知ヲ受テタル者ニ對シテノミ然

レ~~ハ~~是レ即チ上段ニ於テ容假ノ性質ハ概シ



スルハ唯此告知ヲ受ケタル者ニ對シテノミ然

リトス是レ即チ上段ニ於テ容假ノ性質ハ概シ

テ絶對ナリト謂ヘル所以ナリ故ニ述フル

場合ニ於ケルカ如ク時トシテ容假ノ性質モ亦開

係ノモルナルコトアリ得ル如ク然レモ

第二容假ノ占有者カ更ニ新●ナル原因ヲ得此

原因ニ依テ自己ノ爲ニ完全ナル占有ヲ爲ス

トヲ得ヘキ場合ニ於テハ從來ノ權原ハ全ク新

原因ノ爲ニ變更シタルモノニシテ之ト同時ニ

容假ノ性質ハ消滅シ全ク法定ノ占有始マレモ

ノトス

此新タルナル原因ハ當初容假ノ占有ヲ得セシメ

タル者ハ手ニ出ワルコトヲ得ヘク或ハ第三者

ノ手ニ出ツルコトヲ得ヘシ

故ニ受<sup>寄</sup>者若クハ借主トシテ他人ヨリ托セラ

タルモハ手占有シ而モ是<sup>寄</sup>托シタル人ハ

托物ノ真正ナル所有者<sup>寄</sup>ナル場合ニ於テ占有

者ハ此占有ヲ基礎トシテ取得時効ヲ得ルコト

能ハス是レ單ニ<sup>寄</sup>托者ニ對シテ然ルノミナラ

ス尚ホ真正ナル所有者ニ<sup>寄</sup>托シモ亦然リトス然

レトモ後ニ至リ占有者ガ<sup>寄</sup>托者若クハ貸主ト

一國ノ買賣契約ハ、交易ノ約束ヲ為シタルト

トモ後ニ至リ占有者が委託者若クハ貸主ト

一個ノ賣買契約又ハ交換ノ約束ヲ為シタルト

キハ此新原因ニ依リ將來ハ自己ノ物トシテ占

有スルコトヲ得ヘリ從テ此占有ヲ基礎トシテ

時效ヲ成就スルコトヲ得ヘシ

占有者が第三者ト契約ヲ為シタル場合ニ於テ

モ權原轉換ノ效力ハ前ニ述ブル所ト同一真ノ結

果ヲ生スヘシ如ク此場合ニ於テハ占有者ハ善

意ナルコトヲ得ヘク又惡意ナルコトヲ得ヘシ

此善意ト惡意ハ時效ヲ成就セシムルニ必要ナ

ル期間ニ關シテ長短ノ差異ヲ生セシム可シト

雖モ未タ惡意アルカ爲ニ時效ニ成就ヲ妨ケル  
モノト謂フヲ得ス

真正ノ所有者ノ手ニ成<sup>成</sup>ル權原ノ轉換ニ關

シテハ特ニ法律ヲ以テ之ヲ規定スルハ必要ナ

シ何トシテハ此場合ニ於テハ占有者ハ真正ノ

所有者ト爲ルニキカ故ニ單純ナル占有ノ問題

ヲ研究スルハ必要アラサル可シ

第百八十六條第百八十七條及ヒ第百八十八條

此三條ノ法文ハ總テ占有ノ性質ノ証據ニ關ス

ル規定ヲ設ケタルモノナリ

凡ノ一國ノ權利ヲ主張スル者ハ必ズ其權利ノ

ル規定ヲ設ケタルモハナリ

凡ソ一個ノ權利ヲ主張スル者ハ必ス其權利ノ  
自己ニ屬スルコトヲ証スルコトヲ要ス且若シ  
其權利ニシテ特別ノ條件ヲ備フルコトヲ必要  
トスル場合ニ於テハ此條件ヲ存在スルコトモ  
亦權利ヲ主張スル者ニ於テ証明セサル可カラ  
ストハ一般ノ原則ナリ然レトモ時トシテハ直接  
ニ證據ヲ以テ之ヲ証  
明スルコト甚々困難ナル場合アリ斯ノ如キ場  
合ニシテ若シ是ト同時ニ數多ノ事實存在シ人  
生普通ノ状態ニ基キテ之ヲ考フルニ斯ノ如キ

事實存スルトキハ十中八九必ス或ハ事實ハ

眞正ナリト思量シ得ルキ如キモノナラバトキハ

法律上証明ヲ求ムル條件ノ全部又ハ一部ハ存

在<sup>スルモノ</sup>ト推定シ因テ以テ~~ハ~~證據ヲ<sup>更ニ</sup>提出スル

人必要ナキモノト爲ス然レトモ此場合ニ於テ

ハ概シテ反對<sup>ノ證據</sup>ヲ擧ケ申テ此推定ヲ破<sup>ル</sup>ルコト

ヲ許スモノナリ且此反對ノ證據ハ<sup>一切</sup>普通證據方

法<sup>上</sup>一切ノ物ヲ用井ルコトヲ得ルモノトス

本條ノ場合ニ付テ之ヲ述フルニ法定占有ニ必

要ナル條件ハ占有者カ自己ノ爲ニ具權利ヲ

要ナル條件ハ占有者カ自己ノ爲ニ其權利ヲ

行使タルコト是ナリ然ルニ凡ク吾人カ占有ヲ

爲スル自己ノ爲ニスルコト普通ニシテ他人ノ

爲ニ占有スルコト甚タ稀ナルニ因リ既ニ占有

ノ事實アル以上ハ法律上占有者カ自己ノ爲ニ

之ヲ占有シタルモノト推定ス

然レトモ此推定ニ反對シ占有者カ他人ノ爲ニ

占有スルノ意思ヲ以テ權利ヲ行使スルコトハ

實際ニ於テ有リ得ヘキ所ナリ此故ニ此法定占

有ニ對シ異議ヲ爲ス者ハアルトキハ其占有ハ

容假ノモノナルコト直接ニ証明スルコトヲ

要ス而シテ此証據ハ或ハ占有者ヲシテ占有ヲ

得セシメタル原因ニ依テ之ヲ為スコトヲ得ル

ノ例ニハ寄托使用貸借貸借等ノ場合ニ如シ

或ハ他ノ事實ニ基キ因テ占有者カ他人ノ權利

ヲ認ムルコトヲ證明スルコトヲ得ルハ是等ノ

事實ハ或ハ証人ヲ以テ之ヲ證シ又ハ公正證書

若クハ私<sup>署</sup>證書等ヲ以テ證明スルコトヲ得ル

シテ古<sup>署</sup>署<sup>署</sup>初<sup>署</sup>上<sup>署</sup>申<sup>署</sup>事<sup>署</sup>々<sup>署</sup>裁<sup>署</sup>下<sup>署</sup>得<sup>署</sup>因<sup>署</sup>テ<sup>署</sup>期<sup>署</sup>ニ<sup>署</sup>占<sup>署</sup>有<sup>署</sup>

法定ノ占有ニ對シテ異議ヲ為ス者ヨリ占有ノ

權原ヨリ生スル容假ノ性質ヲ證明シタル場合



權原ヨリ生スル容假ノ性質ヲ証明シタル場合

ニ於テ若シ占有者カ前條ニ定メタル二個ノ方

法ニ因リ具容假ノ占有ヲ變シテ法定ノ占有ト

爲シタル場合於テハ容假ノ證明ハ其效ナカ

ル可シ

第百八十七條ノ規定ハ法定占有ノ甚々緊要ナ

ル二箇ノ性質~~ヲ~~合シテ二個人異ナリタル規定

ヲ設ケタルモノ~~ニ~~據リ

第一ノ規定ニ從フトキハ占有ノ正權原ニ基リ

モノナルコトハ法律ニ於テ之ヲ推定セサルモ

トス此事タルヤ明文ニ於テ直接~~ノ~~ノ場

ケスト雖モ立法者カ間接ニ示ス所ノモノタル

故ニ正權原ハ<sup>有</sup>平素之ヲ<sup>有</sup>要スト主張スル者ニ於

テ<sup>必不</sup>証明スルコトヲ要ス然レトモ此場合ニ於テ

モ先ツ一般ノ事情ニ照ラシテ考フルトキハ既

ニ占有ヲ有スル者ハ法律上正權原ヲ基キテ之

ヲ爲シタリト人推定ヲ受クルコト至當ナルニ

<sup>以</sup>處リ蓋シ原因ナクシテ占有スルハ他人ノ財產

ヲ侵奪スルハ謂テシテ侵奪ハ實際甚々稀ナル

事實ナルヘケレハナリ然レトモ他ノ一方ヨリ

考ケルニキハ正權原若シ真正ニ存在セハ普通

考ケルキハ正權原若シ眞正ニ存在セハ普通

ノ証據方法ニ依テ之ヲ証明スルコト甚ク容易

ナル可ク決シテ自己ノ爲ニスルノ意思ノ如ク

証明困難ナルモノトシテ之ヲ從テ法律上ハ推定

ヲ以テ特ニ占有者ニ利益ヲ與フルハ殆ト具理

由ナキモノナリ

之ニ反シテ一旦正權原アルコト直接ニ證明ヲ得

タル以上ハ具占有ノ善意ナルコトハ法律ヲ以

テ之ヲ推定スルモノトス而シテ斯ク如ク推定

ヲ設ルハ單ニ占有者ノ正直ナルコト普通ニ

シテ詐欺アルコトハ甚ク稀ナルカ爲メノミ

非<sup>レ</sup>尚<sup>ホ</sup>善意ノ証明ハ直接ニ之ヲ爲スコト是

タ困難ナル事因リ何トナレハ善意ヲ証明スル

ニハ讓渡人カ真正ノ所有者ニ非サルコトヲ知

ラサリシコト即チ讓渡以外ノ者ニ真正ノ權利

存在シタルコトヲ知ラサリシ結果ヲ証明スル

コトヲ要ス然ルニ此事實タルヤ有的ノ事實ニ

在<sup>ル</sup>スシテ寧<sup>ク</sup>口無的ノ事實ト言ハサルヲ得ス

無的ノ事實ハ其証明是<sup>レ</sup>タ困難ナルモノナリ之

ニ及シテ若<sup>シ</sup>モ占有悪意ナリトセハ占有者ノ主

張ニ反對スル者ヨリ此悪意ノ証明ヲ爲スコト

張ニ反對スル者ヨリ此惡意ノ証明ヲ爲スコト

決シテ困難ノ事業ニ非サル可シ

立法者ハ尚ホ占有<sup>ノ</sup>他ノ二箇ノ性質ニ對シテ

二箇ノ相異ナリタル決定ヲ爲セリ

強暴ハ一個ノ私犯ナルカ故ニ法律ハ強暴ノ推

定ヲ爲スコトヲ得ス何トナレハ何人ト雖モ

犯ヲ爲スコトハ普通ノ情態ニ非サレハナリ

也占有者ニ於テモ當初ニ於テ何等ノ強暴ヲモ

爲シタルコト無ク具占有ヲ維持スル爲ニ引續

キテ強暴ヲ爲シタルコト無シト証明ヲ爲スハ

甚タ困難ノコトナリ蓋シ此事實モ亦無的ノ事

ナリ

實ニシテ証明甚ク難キ所ノモノナルハナリ之

ト同時ニ占有ノ主張ニ反對スルモノニ於テ直

接ニ証人ニ依リ相手方ノ占有カ強暴ニ基キ又

ハ強暴ニ依テ維持シタルモノナルコトヲ証明

スルハ甚ク容易ノコトナル可シ

右ニ述フル如ク強暴ニ關シテハ法律上強暴ナ

ラサルコトヲ推定スト雖モ公然ノ點ニ於テハ

全ク之ト反對ナリ蓋シ占有ノ公然ナルコトハ

一個ノ有的ノ事實ニシテ且引續キタル事實ナ

リ而シテ占有者ヨリ其直接ノ証明ヲ為スコト

リ而シテ占有者ヨリ其直接ノ証明ヲ爲スユト

ハ甚タ容易ナルヘク殊ニ公然ノ事實ナルカ故

ニ一般ノ人又少クモ其地方ノ人ハ一切果カ

証人タルヲ得<sup>キ</sup>故<sup>ト</sup>益々其証拠ハ容易ナ

リトス故ニ占有ノ公然ハ法律ヲ以テ之ヲ推定

スルノ理由アラサルナリ

占有ノ繼續ハ占有ノ性質ヲ変更セシムルモノ

ニ<sup>非</sup>ラ<sup>ズ</sup>唯<sup>ニ</sup>果<sup>シ</sup>カ<sup>キ</sup>為<sup>ル</sup>ニ占有ノ效力ヲ増加セシ

ムルモノナルコト一般ノ原則ナリ固ヨリ占有

ノ第一ノ利益タル推定即チ占有者カ行使スル

權ノ真正ニ存在スルコトノ推定ハ占有ノ繼續

利

ト全ク關係ヲ有セサルモノナリ然レトモ不動

産ノ取得時効ハ一定ノ期間繼續シタル占有ニ

依テ初メテ成就スルキハキニキテ法定果實ノ取

得ハ日毎ニ之ヲ為スモノニシテ特ニ採取ノ所

為(第百九十四條)ヲ要セ<sup>サルモ</sup>占有ノ繼續ニ從テ益

具<sup>利益</sup>增加スルモノナリ且占有訴權中二個

ノ訴權ノ行使ハ占有カ一箇年以上繼續シタル

コトヲ以テ一個ノ條件ト為セリ(第百三條)斯

ノ如クナルカ故ニ占有者ハ具占有ノ繼續ヲ終

明スルニ於テ是ハ利益ヲ有スルモノナリ而シ



利益ヲ有スルモノナリ而シ

テ此占有ニ及對スル真正ノ所有者ニ於テハ此

繼續ヲ非難スルニ於テ大ナル利益ヲ有ス

ルモノナリ

法律ハ此場合ニ於テモ尚キ占有者ニ利益ヲ有スル

法律上ノ推定ヲ設ケタリ即チ占有者ニ於テニ

個ノ隔リタル時ニ於テ占有シタルコトヲ証

明シタルトキハ此事實ニ基キテ此二個ハ相隔

タリタル時期ノ間ニ於テハ繼續シテ占有シタルモ

ト推定ス是レ尚ホ一般普通ノ情態ニ基キテ

立法者カ想像ヲ爲シタルモノナリ然レトモ此

推定モ亦前ニ述ヘタル所<sup>推定</sup>ト同シク常ニ反對

ノ証明ヲ許スモノニシテ且此反對ノ証據ハ一

切<sup>方法</sup>ノ証明ニ依テ之ヲ為スコトヲ得ヘシ

概シテ右ニ掲ケタル二個ノ時期中一ハ占有者

カ真正ノ所有者ト訴訟ヲ為ス時期ニシテ即チ

一方ヨリ回復ノ訴權又ハ占有ノ訴權ヲ提起シ

タル時期ナリ他ノ一ハ右ノ時期ニ比シテ既往

ニ屬スルモノニシテ其相隔タルコト如何ニ依

リ或ハ占有者ヲシテ<sup>時効</sup>ノ利益ヲ得セシムル

ニ足ルヘク或ハ少ナクモ占有訴權ノ利益ヲ得

ニ足ルヘク或ハ少ナクモ占有訴權ノ利益ヲ得

セシムルニ足ルヘキモノナリ占有者ニ於テ直

接ニ証拠ヲ擧ケ依テ二個ノ相隔タリタル時期

ニ於テ<sup>占有</sup>有ニタルコトヲ証明セハ具二個ノ時

期ノ間ニ於テ引續キ占有ニタルコトハ自ラ之

ヲ証明スルノ責任ナシ蓋シ斯ノ如ク間断ナリ

占有ニタル事實ハ直接ニ証明ヲ爲スコト甚々

困難ナルヘキノミナラス普通ノ事實ニ基キテ

考フルモ前後二個ノ時ニ於テ占有ヲ爲ニタル

者ハ具間ニ於テモ間断ナク占有ヲ爲ニタルコ

ト眞ニ近ケレハナリ故ニ法律ハ普通ニ<sup>有</sup>ルヘ

キ事實ニ基キテ此推定ヲ爲メタルモノナリ

*[Faint, mostly illegible text in vertical columns, possibly bleed-through from the reverse side of the page.]*

聖子... 教... 文